

別記  
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和8年2月28日

コミュニティ名	自由進度チャレンジ
代表者所属名	亀岡市立千代川小学校
代表者職・氏名	教諭 日車 光佑

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

自由進度チャレンジ

2 研究テーマ

「自由進度学習」の効果的な取り組み方について

3 研究の目的

- ・ 「自由進度学習」の本質を追求する  
→学習者主体の学びである「自由進度学習」について、理論と実践の両面から深く理解することを目的とする。
- ・ 伝統ある実践校から学ぶ（緒川小学校の視察）  
→約半世紀前から「個性化教育」を推進している愛知県東浦町立緒川小学校を視察。実際の授業風景を直接目にする事で、自身の指導に活かせる具体的なイメージを持つ。
- ・ 指導者としてのマインドセットの構築  
→自由進度学習を導入・継続するにあたり、教師が持つべき「心構え」や、子どもへの関わり方のポイントを明らかにする。

#### 4 研究の成果と課題

(成果) ・視察を通じて、自由進度学習の取り組み方の具体的なイメージを持つことができた。
(課題) ・自由進度学習は一つの教育手法に過ぎないため、目の前の子どもたちに合った手法なのかを今後振り返る必要がある。身につけさせたい力が何なのかを明確にして今後も必要に応じて取り組みたい。

#### 5 研究成果の波及方法

自由進度学習には、環境整備が欠かせないため、教室や校内環境の整備を通じて、同僚たちへ拡散をしていきたい。
--

#### 6 研究（活動）実績\*

年月	研究（活動）内容（具体的に記載）	活動場所
令和7年 7月25日	自由進度学習セミナーの開催 講師：武庫川女子大学 藤本勇二 教授 オンラインで千代川小学校・大井小学校の各校の校内研究の研修も兼ねて実施。両校合わせて約50名の教員が参加	オンライン (亀岡市立千代川小学校・大井小学校)
10月10日	先進校視察①（2名参加） 愛知県東浦町立緒川小学校	愛知県東浦町立緒川小学校
令和8年 1月30日	成果報告会（代表参加）	総教センター
2月2日	先進校視察②（2名参加1名欠席） 愛知県東浦町立緒川小学校	愛知県東浦町立緒川小学校

#### 7 予算執行状況

- (1) 旅費は、旅費執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

#### 8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究（できるだけ具体的に）

テーマ	子どもが「主役」の学びを目指して ～自由進度学習を通じて育む資質・能力～
育てたい資質能力	見通しを持つ力 自分でペースを調整する力

6年国語科 卒業文集を書こう

(「大切にしたい言葉」6年光村図書)

卒業アルバムに製本される「やり直しのきかない」文集作成において、自由進度学習を取り入れた。

【具体的な手立て：手順書の活用】

卒業文集完成までの全工程を可視化した「手順書（マニュアル）」を提示。児童はこれに基づき、自分のペースで計画的に執筆を進めた。

実践又は研究の  
具体的内容

卒業文集 下書き完成後の流れ【マニュアル】		名前：			
締切 12月	手順	内容	セルフ チェック	先生 チェック	お家の人 チェック
1日 (月) ～ 4日 (木)	1	下書きを提出箱に入れる			
	2	文章を1枚のロイロカードにまとめる (command (⌘) +Aで全選択、Ctrl+Cで コピー、Ctrl+Vで貼り付け)			
	3	自在原稿用紙をSafariで開き、題名・氏名(苗 字・名前)を入れる ※自在原稿用紙の使い方を確認			
	4	文章を貼り付ける			
	5	原稿用紙に合うように調整する			
	6	友達3人以上に推敲してもらう 推敲してもらった人からサインをもらう			
5日 (金)	7	先生から原稿用紙画像の合格をもらう			
	8	合格をもらった原稿用紙の画像をスクリーン ショットもしくは画像保存をし、ロイロ提出箱 に提出			
8日 (月)	9	お家の人に見てもらい、最終調整をする(修正 があれば修正し、ロイロ提出箱に再提出)			
～	10	先生から清書の紙をもらい、清書する(ペン書 き、間違えたら先生から修正液を借りる)			
11日 (木)	11	清書が完成したら、先生に見せ、合格をもらう			
～	12	お家の人に見てもらい、最終チェック (誤字・脱字を重点チェック)			
15日 (月)	13	完成! 清書の紙とこのマニュアルを先生に提出!			

このマニュアルは、先生チェックの時に毎回持参すること  
お家の人から合格をもらったら、お家の人の手書きサインをもらうこと

【導入による成果とメリット】

- ・ 児童側の変容：見通しと自己調整  
→複雑な工程も手順書があることで見通しが立ち、主体的に計画を立てる「自己調整力」を育むことができた。
- ・ 教師側の変容：指導の個別化と負担軽減  
→進捗の可視化：児童がどの段階にいるか一目で把握でき、適切なタイミングで支援が可能になった。  
→添削の分散：執筆ペースが分かれることで添削依頼が一度に集中せず、一人ひとりと向き合う時間を確保でき、業務負担の平準化にもつながった。